

文部科学省 大学教育改革推進事業 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

文部科学省の平成24年度新規事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(本事業は、産業界のニーズに対応した人材育成の取組を行う大学・短期大学が地域ごとに共同して地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働のための連携会議を形成して取組を実施することにより、社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材の育成に向けた取組の充実が図られるよう、国として財政支援を行うことにより、幅広い職業人育成に比重を置く大学の機能別分化に資することを目的としています。)において、豊橋創造大学及び豊橋創造短期大学部をはじめ中部圏の23大学が連携し取組む「中部圏の地域・産業界との連携を通した教育改革力の強化」が選定されました。

大学グループと地域・産業界との連携の趣旨

中部圏23大学(短期大学を含む以下「中部地域大学グループ」と呼ぶ)は、これまで各大学独自で学生の社会的・職業的自立を目指して、入学から卒業までの間を通した全学的かつ体系的な指導を行う体制整備を進めるとともに、教育の質保証を目指して教育理念に基づく学士力の検討を進めてきました。この過程で、大学個々で、キャリアガイダンスが整備され、教育改革を本格的に進める舞台が整ってきました。一方で、従来の教育改革の議論が、大学内における教職員間にとどまっているために、「育成すべき資質」が、真に地域・産業界のニーズに応えたものであるかに関して、大学側が十分な確信を得ている状況ではありませんでした。

そこで、中部地域大学グループは、上記の共通認識のもとに、相互に連携しつつ、地域・産業界と積極的に対話を進めることを通して、大学の教育理念を尊重しつつ、地域・産業界が学生に求める資質として提示している「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」に合致する人材を送り出すための現実的な教育改革力の強化を図ることを目標に定め連携することになりました。



大学グループの構成

中部地域大学グループは、大学が教育改革のチャレンジを行う過程で行う失敗をも財産であるとみなし、中部圏の地域・産業界のもつ質を追求する姿勢を、教育現場に適用するために、積極的な対話や連携をすすめていく。各大学が、地域に根差しつつ「チームで働く力」を発揮するためには、より小さな単位による相互作用が機能的です。これらのチームは、地域に根差した連携FDの企画単位であり、成果や失敗を共有する単位となるが、取組自体は、中部地域大学グループが一体となって実施するものです。

東海Aチーム

アクティブラーニングを活用した教育力強化と検証を行う。

- 名古屋商科大学
- 三重大学
- 愛知産業大学
- 椋山女学園大学
- 中部大学
- 豊橋創造大学
- 豊橋創造大学短期大学部

東海Bチーム

地域・産業界との連携力強化と検証を行う。

- 名古屋産業大学
- 岐阜大学
- 同朋大学
- 日本福祉大学
- 名城大学
- 愛知大学短期大学部

静岡チーム

静岡県を舞台として教育力・連携力の強化を図る。

- 静岡大学
- 静岡理科大学
- 静岡英和学院大学短期大学部
- 東海大学短期大学部

北陸チーム

北陸地方を舞台として教育力・連携力の強化を図る。

- 金城大学短期大学部
- 金沢大学
- 福井大学
- 富山県立大学
- 富山国際大学
- 金沢工業大学

※大学グループの幹事校は三重大学、下線はチームを代表する副幹事校

●経営学部 経営学科

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1 教学部教務課
TEL.050-2017-2102(直通) FAX.0532-55-0803
インターネット [URL] <http://www.sozo.ac.jp/>

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

平成25年度『キャリア形成』活動報告

産業界ニーズの把握と学生の就業観育成

事業推進責任者／経営学部長 佐藤 勝尚

『産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業』は、三重大を代表校とした中部圏23大学による「アクティブラーニングを通した教育力」および「地域・産業界との連携力」を通して、教育改革力を強化する取組である。本学情報ビジネス学部／経営学部は、東海Aチームに属して幹事校と副幹事校からなる中部地域大学教育改革推進委員会の調整のもと、連携FDを通して教育改革の実践過程で生まれる成功と失敗を共有しつつ教育力を高め、中部圏産学連携会議を通して大学が育成しようとする資質と地域・産業界のニーズに関する対話を行うものである。また、その地域・産業界のニーズに対応した能力を育成するため、学生参加型授業、共同学習、課題解決学習やPBLなどを教育現場に取り入れ、就業力に関わる学生の能動性を高める改革を進めるとともに社会現場での実践教育としてのインターンシップを高度化するものである。

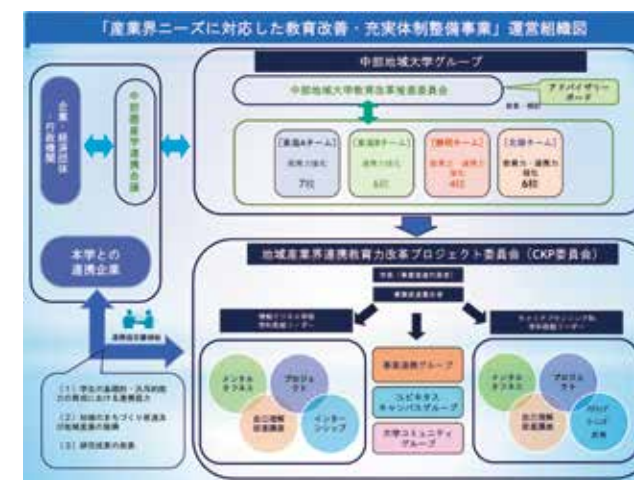
現在、大学における人材育成と産業界のニーズとのギャップについて、最も指摘される点の1つは「学生の主体性・創造性の欠如」である。これは、企業入社後において、与えられた仕事しか出来ない、仕事上の問題点を自ら発見し、目的を設定し、仮説を立て、創造的に解決していくという社会人として必要な姿勢が欠如している状態である。この問題は学生の能力が欠如しているのではなく、彼らがこれまでの人生経験において目的を持って主体性と創造性を発揮する機会が十分に備わっていなかったことにあると考えられる。大学全入時代において各大学の学生サポートが非常に手厚くなる中、学生が「自らの力」で主体的に活動する機会や、創造的に物事を解決する経験が減少していることが原因として推測される。この問題に対応するため、本学では『大学生の就業力育成支援事業』として、これまで情報ビジネス学部／経営学部が取

り組んできた「持続型職業人SOZOプロジェクト事業」を展開させ、以下の4事業を柱とした事業展開を進め、学生の総合的な「就業力」の育成を図るものである。

今回の『キャリア形成活動報告』では、本事業のうち産業界ニーズの把握と学生の就業観の育成を目的として実施している正課科目「キャリア形成」の講義をダイジェストして報告する。「キャリア形成」は、本学の卒業生を含むさまざまな分野で働く先輩たちを教室にお招きし、仕事の楽しさや難しさ、就職時の思いなどを語っていただく講義形式の授業であり、今回の活動報告では、平成25年度に実施したゲスト講師8名の講義内容について報告する。

『地域産業界連携教育力改革プロジェクト』

- ①メンタルタフネス講座の正規科目化への取り組み
- ②自己理解促進のための採用面接官の疑似体験
(バーチャル人事体験)
- ③地域企業・組織と連携した プロジェクト体験
- ④学生、連携大学、地元企業を含めた3者間の協働によるインターンシップ実施



1年次開講科目『キャリア形成』のねらい

担当教員／経営学部 准教授 加藤 尚子

1年次開講科目「キャリア形成」は、様々なキャリアを知ることで、学生1人ひとりの選択肢の幅、物の見方が更新されることを目的として運営されている。ここでは、さまざまなキャリアを歩んできている人材と接する機会として外部講師による講演を提供し、彼らがどのようなキャリアを歩んできているのか、キャリア発達という軸のもと、提示している。

外部講師による講演前にはキャリアとは何か、キャリア発達に関する授業を受けるとともに、学部長によるキャリアに関する講義を受ける。また外部講師と学生が名刺を交換するために名刺を作成する回も設けられている(それぞれの名刺には学生自身のキャッチコピーを入れることが求められている)。

外部講師の依頼にあたっては、学生にとって身近な存在とすることが可能な年代とし、基本的には20歳代から30歳代とした。実は、外部講師をお願いするにあたり、譲れなかった点が一つだけある。それは仕事について語るときに、目がきらきらしている人を選ぶという点であった。働くことで何を、何を学びとるのか、また働くということは日々何が起きているのか、この点について学生たちに生の声を届けてもらうことが本科目の目的であると同時に、学生にとって「モデル」となりうる存在であることが本科目にとって重要な点としたからであった。

学生にとってモデルとなる人材に接する機会を提供すること、学生らが選択肢の幅や物の見方を更新していくこと、本科目の目的はここにある。この科目設置の目的はキャリア発達について自ら考える機会を持つことにあり、同時にBandura(1971,1977)の観察学習の考え方に基礎を置く。また学生全員にこの機会を提供するため、必修科目



という形を取っている。

学生時代は予期的社会化の段階にあたる。本学では、仕事そのものに接する機会はいくつか存在する。しかしながら、学生らにとって「モデル」となりうる存在を中心に置いた授業は経営ビジネス講座(旧総合講座)²以外、設置されていなかった。彼らにとってのモデルとなりうる人材に接する機会は身近に存在するのだろうか。それほど多くはないのではないだろうか。この科目を立ち上げたきっかけはこの疑問から始まったのであった。

参考文献

Bandura,A.〔1971〕*Psychological Modeling : Conflicting Theories*,Aldine-Atheton. (原野広太郎・福島修美訳〔1975〕『モデリングの心理学—観察学習の理論と方法』金子書房)
Bandura,A. 〔1977〕*Social Learning Theory*, Prentice-Hall. (原野広太郎監訳〔1979〕『社会的学習理論—人間理解と教育の基礎』金子書房)

¹ 本科目は外部講師の方々のご尽力により実現できております。この場をお借りして、感謝申し上げます。

² 経営ビジネス講座とは、経営に携わる方々から直接お話を聞く機会を持ち、企業経営や業界の諸問題について理解を深め、生きた経営を学ぶ授業であり、二年次に設置されている。

『キャリア形成』を振り返って

担当教員／経営学部 准教授 山口 満

平成18年度より豊橋創造大学情報ビジネス学部の講義としてスタートした「キャリア形成」は、今年度で8年目を迎えることとなった。この間、様々な業界で活躍されている社会人の方々(主に20代～30代の若手を中心に)に講師としてご協力いただいた。平成25年度は計10名・8組の講師をお迎えすることができ、これまでご講演いただいた講師の人数はのべ75名となった。ご多忙のところ貴重な時間を割いて本学の学生のためにご準備・ご講演くださった皆様には、あらためて心より感謝申し上げる次第である。

本講義の大きな目的は、「社会で活躍する人生の先輩たち(本学の卒業生を含む)」の多様なキャリアに触れ、その中から学生自身が自分のキャリアを組み立てるためのヒントを見つけ出すことにある。教員が講師の方々に講演を依頼する際には、これまで歩んだ自身の人生を振り返っていただきながら、学生と社会人を比べたときのギャップや、現役の大学生に対して伝えたいことを自由にお話しいただくようお願いしている。

講師の方々の仕事は多種多様であり、講演内容や講演方法も様々であった。しかし、講師から寄せられたメッセージの大部分は図らずとも共通しており、およそ次のこと一人間関係(出会い、ネットワーク)、コミュニケーション能力、態度・姿勢、自己理解、専門知識一が重要であることに言及されていた。講師の方々に仕事の実情や本音をざっくばらんに



語っていただくことで、大学教員の立場からは伝えることが難しい社会で働く人の「リアル」を学生に届けられたと考えている。

さて、この講義をより実りあるものにするためには、講演者による一方的なメッセージ伝達の講義で終わるのではなく、講演を聴講した結果として学生自身がそれをどのように受け止め、何を感じたのか・気付いたのか、をまとめることが重要である。本科目では、講演毎に感想レポートを作成するよう学生に課題を与え、意見形成と表出を促した。これは、「社会人基礎力」における傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)・柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)、さらには発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)の育成

も目的としている。学生から提出された感想レポートについて、部分的に抜粋して本紙面で紹介させていただいた。感想レポートの内容から、大部分の学生において自分なりの「気づき」があり、自分の意見や感想として発信できていることを確認できた。

高校を卒業して日の浅い大学一年生を対象とした講演であり、卒業後の職業人生をイメージしづらい学生もいたようであるが、本科目を通じて受け取った講師のメッセージを忘れることなく、残りの学生生活を有意義に過ごされることを願っている。



1 広告代理店の仕事

講師：菅沼 真 氏[卒業生]／株式会社イマージュ広告

平成25年度第1回目は、本学の卒業生(経営情報学部第1期生)である菅沼真氏にご講演いただきました。菅沼氏は、印刷会社勤務を経て、現在は広告代理店の営業のお仕事をされています。

講演では、はじめに、豊橋創造大学での学生時代の過ごし方、また、就職活動を振り返ってお話いただきました。次いで、印刷会社や広告代理店において経験された営業という仕事について、具体的なエピソードを交えながら分かりやすくご紹介いただきました。講演の中では、人生の転機となった転職について、どのような考えの下でどのような行動をされたのかをお話いただきました。後半は、仕事のやりがいや仕事の楽しさ・仕事の難しさ、など、働くことをイメージしやすい大学1年生向けに易しくご講演いただきました。

講演の最後には、「今から意識してほしいこと」として、「コミュニケーション力は重要。まずは挨拶や会釈など出来ることを日頃からしっかりと」「失敗は信頼アップのチャンスである」等、学生に向けて貴重なメッセージを送っていただきました。講演後には、多くの学生と名刺の交換をしていただきました。



学生のレポート

- 社会人になって仕事を続けていくには、モチベーションの向上や、仕事にやりがいを見つけていくことが大切だと思った。自分の仕事にオリジナリティを持たせたり、顧客とコミュニケーションをとっていく中で喜びの声をもらったり、仕事を達成した時の満足感を得ることが大事だと分かった。
- 仕事を選ぶとき、自分とあっている仕事を選ぶのも大切だが、まず、人間関係が重要であるとお話されていて、人間関係はどこでも大切なものだと感じた。人とコミュニケーションをとったりするのが少し苦手なので、大学生生活をしている間に少しずつ改善していこうと考えている。

5 金融業界の仕事

講師：青山 貴映／豊川信用金庫

外部講師による第5回目の授業として、豊川信用金庫に勤務されている青山貴映氏をお招きしてご講演いただきました。

青山氏からは、豊川信用金庫の概要についてご紹介いただいたのち、銀行と信用金庫の違いといった基本的な事柄についてわかりやすくご説明いただきました。次に、信用金庫に就職するまでのフロー、総合職と専門職の職務の違い、信用金庫における具体的な業務内容等についても易しく教えていただきました。さらに、金融業界で働くためには専門知識の習得が必要であること、入庫後にはいくつかの試験を受験しなければならないこと、金融業界に向いている人、等、ご自身の経験談も交えながらご説明いただきました。講演において青山氏は、特に「プロ意識を持って仕事に臨むこと」「向上心と自覚性が重要である」ということを強調されました。

講演の最後には、学生へのメッセージとして「学生のうちは考える時間がある。自分は何をしたいのか、何に向いているのかを、しっかり意識して考えてほしい」とお話しいただきました。金融業界を志望する学生のみならず、青山氏からの言葉は多くの学生に届いたようです。



学生のレポート

- 青山さんは、金融企業だけでなく、仕事を選ぶ際に「自分は何になりたいのか」「どんな仕事について、どう生きていくのか」「自分の性格を理解すること」、これらが必要だと話していた。今までは1年生だからまだ早いと思っていたが、今から就職のことを考え始めても早すぎることはないのではないかと思った。
- これからの大学生生活で自分の成りたい職業、向いている職業を見つけ、専門的な知識を身に着け、人生をどのように生きていくかなどの人生設計を立て、自分の性格を知り得ていくことが重要だと感じた。

2 保険代理店の仕事

講師：野島 啓 氏[卒業生]／野島保険事務所

外部講師による第2回目の授業として、10月18日に野島保険事務所代表の野島啓(あきら)氏による講演が行われました。本学第二期生にあたる野島氏は大学時代から「誰にも負けたくない」という想いが強く、いつか起業しようと心に決めていたそうです。

野島氏は数社の会社経験と公務員としての仕事経験を積んだ後、現在の会社を立ち上げました。講演ではこれまでの仕事についてその経験を話しくださるとともに、保険代理店の仕事について具体的にお話しくださいました。

そして、これまでのキャリアを踏まえ、どのような場面においても、必ずそこには目的があり、目的を達成するための目標があったとのこと、学生に目的を持って行動することの大切さ、そして目標と目的をしっかりと持ち、3年後(卒業時)、5年後の自分を頭に描くことの大切さを語っていただきました。

毎回、外部講師による授業が終わった後、何人かの学生たちは学生自身のキャッチコピーが書かれた名刺を持って外部講師のところに挨拶へと向かいます。後日、野島氏は学生から手渡された名刺にコメントを書いて渡してくださいました。



学生のレポート

- 今回の講演を聞いて自分の目的と目標を明確にしなければならないということを学んだ。自分が何をやりたいか、何になりたいか、そのために何をして、何をすればよいのかを明確に決める必要があると思った。仕事をうまくやっていくには、仲間とコミュニケーションをしっかりと、自分を信頼してもらえるように、仲良くなることも必要だと感じた。
- 自分のできる範囲での目標を継続的に立て、達成し続けたいと思った。自分の立てた目標を達成し続けることで、それが自分の生活のリズムになり、目標を達成し続けることが癖になっていったらいいなと思った。

6 人材派遣・研修の仕事

講師：井澤 友行 氏[卒業生]／株式会社センチュリーアドカンパニー

外部講師による第6回目の授業として、11月22日に高島屋グループ株式会社センチュリーアドカンパニーの井澤友行氏による講演が行われました。井澤氏は本学一期生にあたります。井澤氏は出会いを大切に考え抜くこと、出会いから何を学ぶのか、仕事を選ぶ準備をしておくことの大切さについて話してくださいました。

入学式で初代学長である佐藤芳雄教授が学生たちに語りかけた式辞の中の言葉「ここがロードス島だ、ここで跳べ」。これはイソップ寓話の話に出てくる言葉で、今いる場所で努力できない者はどこへ行ってもできない、ここで努力することが大切であることを意味しているそうです。井澤氏はこの言葉があったから様々な困難を乗り越えることができたといいます。

また、井澤氏は大学で出会った恩師関本昌秀教授との対話を通じて自分の人生について考え抜いていきます。井澤氏の疑問に時にはこの本を読んでみるとよいと書籍を手渡す関本教授。自分は何ができるのだろうかを考え抜いた井澤氏は現在、若者の潜在能力を開花したいという思いを実現し、キャリアカウンセラーとしてがんばっています。



学生のレポート

- 出会いをどう活かすかが、「自分の運命を左右する」と聞いて、心を打たれた。今まで出会った人、大学で出会った人、これから出会う人、その出会いを大切にしようと思った。そして、これから何事も楽しく思うようにしようと思った。思えるようにするのも自分、思えなくなるのも自分次第。自分が行動を起こし、何事も楽しく終わらせることができるようにしようと思った。
- 「ここがロードス島だ。ここで飛べ」の精神について、とても大切であることだと感じたと同時に、感動した。この意味は「自分の選んだものが最も良いものだ」と考えるということ」である。(中略)。心の持ち方次第で生活や精神などが大きく変わるのだと感じた。

3 飲食業界の仕事

講師：河合 沙奈美 氏[卒業生]／株式会社物語コーポレーション

河合沙奈美氏は、本学の卒業生(経営情報学部第1期生)であり、株式会社物語コーポレーション人財開発部にて人事関係のお仕事をされています。

河合氏からは、はじめに、昨今のフードビジネス業界の動向について、他業界との比較や具体的な数値データを用いながら、様々なことをご説明いただきました。次いで、物語コーポレーションにおける業務内容、部門や教育制度、特徴的な取り組み(活動)等々についてビデオやパンフレットを交えながらご紹介いただきました。経営学を学び始めた一年生にとって、一企業の経営理念や取組内容、社内の様子を詳細かつ具体的に知ることができたのは、大変有益であったようです。



さらに講演中には、学生同士がペアを組み、自己紹介・他己紹介のワークに取り組みました。ワークを通して、河合氏からはジョハリの窓をご紹介いただくとともに、自己開示の重要性について人事・採用担当の視点からご教授いただきました。講演者から学生にメッセージを送る通常の講義形式と異なり、学生同士でワークを行った本講演は、学生にとって強く印象に残る回となりました。

学生のレポート

- 会社は物語でできている、そのキャッチコピーはこの会社にとってもピッタリだと思いました。ひとりの個性では無理でも、ひとり一人の個性が会社という名の物語をつくっていくというのはとても素敵だと思います。私も将来、自分の個性をしっかりと隠さずに出せるようになりたいです。
- 今回の講演では二人一組になりお互いに自己紹介をしあったことが印象的でした。自分のことすべて知っているつもりでも他人からしか見えてこない自分というものが存在するという事を知ることができました。

7 IT業界の仕事

講師：原田 大也 氏[卒業生]・成田 慎平 氏／富士電機ITソリューション株式会社

外部講師による第7回目の授業は、富士電機ITソリューション株式会社の原田大也氏(本学経営情報学部卒業生、SE職)と成田慎平氏(営業職)のお二人による講演となりました。

お二人からは、はじめに、IT企業である同社の会社概要や、同社で働く方々の職種ならびに業務内容についてご紹介いただきました。次に、学生時代から就職活動を経て今日に至るまでのエピソードについてそれぞれ語っていただきました。数々のご経験の中から、学生に対して「視野を広く、好奇心を大切に」「目標・目的を持つ」「一人で悩まずに相談する勇気を」「失敗を恐れずに何事にもチャレンジ」などの具体的なアドバイスを送っていただきました。

お二人は現在、営業およびSEとしてIT業界に関わり活躍されていますが、本学の学生と同じように、学生時代は経営・経済系の大学・学部で学んでいらっしやいました。経営系学部生の進路として縁遠いと思われるIT業界で仕事が出来ることをお示しいただいたことは、その業界に関心を寄せる経営学部生をはじめ多くの学生にとって、大変意味のあるものとなりました。



学生のレポート

- 実際のITは「縁の下」の力持ちである、パソコンにも向き合うが、人と接するところも多い仕事」と聞いて、驚いた。人と接することが少ないと考えていたので、IT業界への印象もかなり変わった。
- 今まで、自分ができないもの、苦手なものを避けていたけど、今回の講演を聞いて、自分ができないからやらないのではなく、やらないからできないのだと思いました。まだ就職のことは考えていないけど、できないから、苦手だからやめようという考えはやめようと思いました。知らないこともやっていけば、できるようになるし、楽しくなると思うので、何事にもチャレンジしていこうと思いました。

4 広告業界の仕事

講師：齋藤 純 氏[卒業生]／プライムナンバーズ株式会社

外部講師による第4回目の授業として、11月8日にプライムナンバーズ株式会社執行役員の齋藤純氏による講演が行われました。齋藤氏は大学卒業後、株式会社トランスコスモスでの営業、広告プランナーとしての経験を経て、株式会社サイバードに転職、2013年夏にはプライムナンバーズ株式会社の執行役員に就任しました。

プライムナンバーズ株式会社は2012年に設立されたネット広告コンサルティングを中心に展開している会社で、新しい価値の創造にも挑戦しているとのこと、講演していただいた段階では、12月にスマートフォン向けのサービスの立ち上げができるよう、準備をしていることを学生にお話しくださいました(現在、各種サービスを並行して作業しているため、スマートフォン向けサービスは2月末にリリース予定となりました)。楽しみにしてくださっている学生の皆様にお詫び申し上げますとのことでした。

講演時には齋藤氏のこれまでのキャリアについて大学生生活から就職活動、これまでの仕事経験等詳しく語っていただきました。そして学生へのメッセージとして、志を持つこと、意思表示をすること、決断経験値を増やすこと、成果にこだわること、ダメ出ししてくれる先輩を持つことの大切さを語ってくださいました。



学生のレポート

- スマートフォンの中にはアプリケーションがたくさんあり、無料で使えるものから有料のものまで様々あるが、無料のアプリケーションを作る会社はどうやって儲けているのかは、疑問であり、興味深いことだと思った。
- 「自分に将来に対して軸を持つ」という内容が印象深かった。(中略)。今の自分の「将来に対しての軸」はまだ決まっていないのだが将来これが必要になるのだと思い、よく考える必要があると思うことができた。
- 今回の話を聞いて、これから「行動→結果→分析」の流れを意識して物事に取り組もうと思った。

8 住宅営業の仕事

講師：小木曾 弘規 氏・成瀬 雄一郎 氏／トヨタホーム名古屋株式会社

外部講師による第8回目の授業として、12月13日にトヨタホーム名古屋株式会社の成瀬雄一郎氏と小木曾弘規氏による講演が行われました。

住宅営業について、お二人の経験談を交えながら、その良さと大変さ、おもしろさについてお話しくださいました。そして、仕事をしていく上で大切にしている二つの点を掲げ、是非この学生という時期にこの二つの力をつけていくことの重要性を語っていただきました。

お二人が仕事をしていく上で大切にしている二つの点とは、コミュニケーションと「常に考える」ということでした。ここでのコミュニケーションとは心配り、気遣いであり、人間関係を築くための源になり、この力をつけるには何をすべきかをお話しくださいました。また「常に考える」ことで何が起きるのか、具体的な事例をもとにわかりやすくお二人の思いを伝えていただきました。

なお、今回の講演にはトヨタホーム名古屋株式会社 総務・人材グループ主任の藤井孝行様も同席してくださいました。ありがとうございました。



学生のレポート

- 今回の講演をきいて、身につけるべき力とは、「コミュニケーション力」「考える力」「感動力」ということがわかった。私は、この三つの力を身につけるために、多くの人と話し、さまざまな物事を常に考え、感動したり、人を感動させられるようにし、いろんな経験をし、魅力になる自分になれるように頑張っていきたいと思う。
- いい仕事をしていても人間関係を築くことができなかったら、仕事も続かないと思う。しかも、(コミュニケーション能力は)今社会で求められる能力でもあり、今後はコミュニケーション能力をどれだけ活用できるかが重要だと思う。